

平成31年度事業計画詳細

(平成31年1月1日より12月31日)

(1) 大工道具及び建築関連資料の収集及び保管

① 大工道具など実物資料の収集

a) 実物資料の収集

日本国内および海外の実物資料を収集し、展示事業ならびに研究活動に活用する。

② 視聴覚資料の収集と保管

a) 「木組みの家づくり—大工・阿保昭則の仕事(仮)」

平成31年開催予定の開館35周年記念展での上映に向けて、伝統的な木組みの技術を用いて住宅を作り続ける大工・阿保昭則氏の仕事を記録し、現代社会における木組みの家の可能性について語っていただく。昨年度に大半の撮影は終了しており、本年は6月にかけて残りの工事の記録撮影と編集作業を行い、9月をめどに完成させる計画である。

b) 「組子細工(仮)」

平成31年開催予定の開館35周年記念展での上映に向けて、建具の第一人者である横田栄一氏の組子細工の仕事を記録する。組子細工の技術は、世界的に見ても日本独自といえる精巧な木工技術である。展覧会での使用のみならず、当館の映像ライブラリでも活用できる資料性の高い作品とする予定である。尚、本作品は昨年度から撮影に着手し、本年9月までに完成する計画である。

c) 「水車大工(仮)」

平成31年開催予定の企画展「水車大工」用の映像として、香川県高松市の高原水車復元工事の映像を制作する。素材となる映像は水車の所有者によって撮影されており、それを編集する。

d) ビデオライブラリーの英語字幕化

ビデオライブラリーの映像資料の内、必要度と優先度の高いものを選別し、英語ナレーション版、または字幕版を製作する。平成30年度より開始した計画の継続実施分。

③ 分類整理・保管

a) 収蔵庫の整備

収蔵庫維持管理に伴う各種業務を実施する。害虫燻蒸、温湿度管理、資料の油拭き等の定常管理の他に、本年度は温湿度管理機器および除湿器の更新、資料増加にともなう保管用の棚・箱等の購入を行う。

b) 資料データベースの整備

資料の保全ならびに管理作業の効率化を目的に、大工道具・図書・文献・映像・論文等の資料のデジタル化・データベース化を継続的に推進している。本年度は通常通り、新規収集資料の登録、写真撮影、画像補正・挿入等の作業を実施する。

(2) 大工道具及び建築関連資料等の展示及び公開

① 常設展示

a) 常設展示の保守管理

常設展示における器具破損対応等の保守管理、道具の油拭きならびに借用品の賃借契約更新を行う。本年度は常設展リニューアル後5年目となるため耐用年限に達した情報端末用ディスプレイやPC等機材(約20台)をすべて交換するための費用を計上している。また傷汚れが目立つ展示品の交換や一部展示解説の見直しも併せて実施する。

b) 関連印刷物の発行

来館者用のリーフレット、企画展、ワークショップ等のイベントチラシ、企画展図録の印刷発行と増版を含む適正在庫量を確保する。また本年度は特別に、平成31年2月に刊行予定の『a+u 竹中大工道具館・竹中工務店特集号』（日英併記）をミュージアムショップにて主に外国人向けに販売するため、その仕入費用を計上している。

② 企画展の準備と実施

a) 企画展「洋菓子の道具たち 型で味わうお菓子の歴史」

エーデルワイスミュージアムが長年にわたって収集したヨーロッパ各地の製菓器具コレクションの中から、型を中心とした貴重な資料を展示し、あわせて装飾に凝った華やかな菓子容器や現代のパティシエがつくり出す最高峰の工芸菓子「ピエスモンテ」も紹介する。

会場：当館多目的ホール

会期：12月15日（土）～1月27日（日）

b) 企画展「SOMA 日本の森と素木の家具」

日本の針葉樹の価値を再び見つめ直そうと、SOMA（杣）というブランドを立ち上げた岐阜県美濃加茂市の木工作家、川合優氏の活動を紹介する展覧会。日常の器から家具まで、端正な佇まいながらも木の持つ力強さを感じられる作品を展示する。

会場：当館多目的ホール

会期：2月9日（土）～3月17日（日）

c) 企画展「水車大工」

水車大工の野瀬秀拓氏の技術を中心に、水のエネルギーを効率よく動力に変換するための、水車や歯車の作り方を展示する。関連イベントとして野瀬氏によるセミナーを行う。

会場：当館多目的ホール

会期：3月30日（土）～5月12日（日）

d) 企画展「第17回伝統工芸木竹展」

昭和29年から開催されている日本伝統工芸展の木竹工部門で隔年で開かれる「伝統工芸木竹展」の神戸展を当館にて開催する。我が国の優れた伝統工芸のなかでも、木竹工芸は豊富な良材に恵まれている日本独自の工芸として技術的・芸術的に優れた作品を遺している。本展ではこの伝統を継承しつつも、今日の生活に即した創意ある作品を展示する。

会場：当館多目的ホール

会期：5月18日（土）～6月9日（日）

e) 企画展「座る・くらべる 一脚展 2019」

兵庫県で活動する家具作家が過去一年以内に製作した新作の椅子を一脚ずつ展示する企画展を開催する。

会場：当館多目的ホール

会期：8月下旬～9月上旬（予定）

f) 企画展「木工藝－清雅を標に－ 東京展

人間国宝須田賢司氏（木工藝家）の作品を通じて日本伝統の木工藝術を紹介する。小箆筒、箱、家具など多彩なジャンルの作品を中心に、銘木や道具、指物仕口、仕上げ技法などの制作の舞台裏も紹介し、精緻な木工作品を生み出す背景に迫る。

会場：東京 ギャラリーエークウッド

会期：東京 8月19日（月）～10月4日（金）（予定）

- g) 開館 35 周年記念巡回展「木組（仮）」神戸展
 開館 35 周年の特別企画として、日本各地を巡回する大型企画展を開催する。今回は日本並びに世界の「木組」に着目し、大工を始めとする職人とコラボレーションして、木組を象徴するオブジェを制作し、木と道具の関係を交えながら、その魅力を紹介する。本展は神戸展を皮切りに、翌年にかけて名古屋、九州、北海道、東京の各会場を巡回する計画である。
 会場：当館多目的ホール
 会期：10 月～12 月（予定）
- h) 海外特別展「THE THINKING HAND（日本の大工技術と道具）」ニューヨーク展
 近年、米国やフィンランドにて開催してきた日本の大工技術と道具を紹介する展覧会を再び米国で開催する。主催は現地のボタニカルガーデンで当館は資料の輸送と職員・職人の派遣等を負担する。
 会場：ボタニカルガーデン（ニューヨーク市）
 会期：4 月～5 月頃（予定）
- i) 海外特別展「THE THINKING HAND（日本の大工技術と道具）」中国展
 近年、米国やフィンランドにて開催してきた日本の大工技術と道具を紹介する展覧会を中国で展開する。主催は現地の古建築博物館（国立）で当館は資料の輸送と職員・職人の派遣等を負担する。
 会場：保国寺古建築博物館（浙江省寧波市）
 会期：9 月～10 月頃（予定）
- j) 展覧会「和の美」
 日本の伝統工芸を支えてきた作家たちを紹介する展覧会を開催する。
 会場：当館多目的ホール
 会期：6 月（予定）
- k) 企画展共通備品の整備
 企画展開催に必要な備品（映像機器、サインスタンド等）を購入する。

③ 企画展の中期的準備

- a) 開館 35 周年記念巡回展「木組（仮）」名古屋展
 本年度 10 月から開催予定の展覧会を平成 32 年に名古屋に巡回すべく、準備・調整を進める。
- b) 企画展「鋸の名工 宮野鉄之助（仮）」
 宮野鉄之助に関する企画展を平成 32 年に開催すべく準備・調整を進める。
- c) 企画展「アルヴァ・アアルト（仮）」
 ギャラリー・エー・クワッド連携。平成 32 年に開催すべく、開催団体と調整を進める。

（3）大工道具及び建築関連資料等に関する調査研究及び研究誌の発行

① 海外の建築技術と道具

- a) 東アジア（中国、韓国）
 日本と深い関わりをもつ中国・韓国の木造建築と道具に関する調査研究を実施している。中国については道具に関する既存書籍について李暉（奈良文化財研究所特別研究員）氏に翻訳業務を委託する。韓国については現地調査を行う。

- b) 東南アジア
 - 昨年度企画展「南の島の家づくり—東南アジア島嶼部の建築と生活」展に引き続き、東南アジア大陸部編を開催するための基礎調査を行う。
 - c) ヨーロッパ
 - ヨーロッパの大工道具と建築技術に関する継続的研究を引き続き行う。
- ② 日本の建築技術と道具
- a) 大工技術書
 - 館蔵の大工技術書のうち、近年収集された新規収蔵卷子本の内容読解を継続的に進め、学会投稿へとつなげる。
 - b) 建築部材の加工技術（部材刃痕）
 - 日本の現存最古の民家である神戸市の箱木家、ならびに姫路市の古井家の刃痕を調査する。併せて兵庫県内の江戸時代の民家の刃痕も調査して、両者の対比によって中世の民家の刃痕の特徴を明らかにする。
 - c) 職人への聞き取り調査
 - 名工と讃えられる大工ならびに鍛冶を対象に、既往研究調査ならびに本人・関係者への聞き取り調査を、中期的課題として継続的に実施する。
 - d) 近世民家の住まい方
 - 近世の民家における住まい方の歴史あるいは構法・加工技術の歴史について調査研究を進める。今年度は資料調査など各種準備を行う。
- ③ 博物館学：教育普及活動
- 博物館における学校との連携事業を実施する。一昨年に製作した視覚障がい者向けのハンズオンキット（文化庁の助成事業の一環）を活用したプログラムを実施する（2月2日）。またこのプログラムを近隣の視覚障がい者団体や支援学校向けに実施する。
- ④ 「技と心」研究会開催（旧村松記念研究会）
- 館外学識者ならびに館職員を対象に、木造建築ならびに道具に関する専門家を招聘して、研究会を開催する（7月頃を予定）。その他必要に応じて適宜、個別の研究会を開催する。
- ⑤ 出版活動（研究成果の公開）
- a) 研究紀要 No. 30 の発行および No. 31 の準備
 - 調査研究成果の公開を目的として、研究紀要 No. 30 を3月下旬に発行し、当館関係者、大学、専門研究者等に配布する（800部作成予定）。年後半には No. 31 発行に向けて企画ならびに原稿執筆を進める。
- ⑥ 調査研究一般
- a) 情報収集活動
 - 道具と建築に関する情報収集を行う。現地調査、学会参加、博物館視察、出版物収集などを随時実施。
 - b) 研究者ネットワークの形成
 - 重点推進テーマに関する館外学識者との勉強会を適宜開催し、研究ネットワークの構築と館職員の知識向上を図る。

(4) 教育、学術及び文化に関する普及及び支援活動

- ① 諸施設への協力
 - a) 諸施設への協力
博物館・研究機関・職人団体等への情報提供および資料貸出、博物館実習生の受け入れ、館外での受託講演、研究協力などを行う。また本年度は9月に開催されるICOM京都大会に協力し、ブース出展等を予定している。
 - b) 伝統を未来につなげる会の活動を支援する
宮大工や左官が継承する「伝統建築工匠（こうしょう）の技 木造建造物を受け継ぐための伝統技術」をユネスコの無形文化遺産に登録する活動を支援する。
- ② 講演会とセミナーの開催
 - a) 「技と心」講演会
館外の学識者や著名人物を講師として迎え、一般向けに大工道具や建築技術に関する講演会を実施する（11月開催）。本年度は「木組」展と連動した講師を招聘する。
 - b) 「技と心」セミナー
館職員および館外学識者を講師に、大工道具や建築技術に関するセミナーを隔月で開催する。
 - c) サマーイベント、ウィンターイベント
開館記念日（7/1）をファンデーとし無料入館日とする他、夏季限定の特別イベントを今年も開催する。冬季も同様に、クリスマスや正月、節分といったイベントに合わせて特別イベントを開催する。
- ③ 教育普及プログラムの実施
 - a) 館内プログラム
来館者に道具の使用を通して理解を深めてもらうため、「ちょこっと木工」（ワークショップ、水曜、土日祝日）、大工による鉋削り体験（月1回）、大工道具にチャレンジ（月1回）、春休み・夏休み子ども体験教室、木作家によるワークショップなどを定期的実施する。
 - b) 木工室の管理・運営
安全かつ円滑なイベント実施のために、木工室を管理する。また、イベント実施に必要な大工道具および工作機械を拡充する。
 - c) アウトリーチ活動
小学校をはじめとする教育機関での出張授業や教員研修、他機関での体験教室などのアウトリーチ活動を実施する。
- ④ ボランティア活動の管理・運営
大工道具に関心ある希望者をボランティアスタッフとして受け入れ、(1)館蔵品の手入れや整理等の補助、(2)常設展示の展示解説、(3)館内プログラムの運営およびその補助、(4)アウトリーチ活動での補助等に携わってもらっている。これら活動の管理運営ならびに、スキルアップのための研修会・見学会等を随時実施する。

(5) 竹中大工道具館の管理・運営（管理業務）

① 管理・運営一般

a) 財務会計処理業務一般

本館活動のための資金運用を含めた財務会計処理業務を適正且つ着実に実施する。

b) 入館受付、団体受付、展示説明他

団体の見学依頼の予約受付、展示説明対応者の設定を着実にこなすと共に、個人の来館者、外国人来館者に対しても解説ボランティアや音声ガイド活用等により満足される対応を行なう。人気の「ちょこっと木工」については受付業務をスムーズに行うために参加申込シートやメニュー表の改善を進める。

② 広報活動

a) 広報一般

各種広報媒体へ企画展やイベント活動等を含めた情報提供を積極的に展開し、広報後の礼状送付などアフターケアを含め継続して報道してもらえるよう努める。また必要に応じ地方版への広告掲載、新聞折り込みを実施する。

b) 広報印刷物の発行と送付

当館の最新情報およびイベント案内を掲載した広報誌「竹中大工道具館 NEWS」（年2回発行、作成部数6月：8,000部、12月：8,000部）と「イベントチラシ」（年2回発行、作成部数6月：15,000部、12月：15,000部）を発行し、また、サマーイベントやウィンターイベントの各チラシ（6月：30,000部、12月：30,000部）も発行する。関連施設、来館者などに配布ならびに発送する。

c) ウェブサイト・メールマガジンの維持・管理

広報活動の一環として、一般向けに IT を利用した、ウェブサイトの定期的更新および企画用特設サイトの構築、メールマガジンの定期発行（隔月年4回、広報誌 NEWS ベースに再編集）を実施する。また外国人対応のため、英語ウェブサイトを充実させるとともに無料 Wi-Fi の設置を進める。

③ ミュージアムショップの運営

来場者サービスの一環として「木」「道具」をコンセプトにミュージアムショップを運営している。購入者の嗜好を検討しながら、当館のイメージ向上につながる新商品の開発を生産者と連携しながら進めていく。

④ 茶室の維持・管理

敷地内の茶室を適切に維持管理し、春・秋にそれぞれ2日間の日程で応募による呈茶体験並びに特別公開を実施する。

⑤ 休憩室の維持・管理

休憩室を適切に維持管理し、小学生の校外学習での昼食場所、乳幼児を連れた家族の休憩場所、おとなが庭園を見ながらほっとひと息つける心地よい休憩場所を提供する。

⑥ 館の情報インフラの強化・管理

運営に必要な作業環境および情報インフラの更なる充実とセキュリティ強化を図るとともに、特に情報発信の手段としてメインとなるホームページの充実を図りユーザーの利便性を向上する。

⑦ 理事会・評議員会、役員見学会の開催

2～3月に決算の定時理事会及び定時評議員会、11月に次年度の事業計画・予算の定時

理事会及び役員見学会(役員全員)を開催する。また、必要に応じて臨時理事会、臨時評議員会を開催する。

⑧ 財団法人事業報告会への参画

(公財)竹中育英会、(公財)ギャラリーエークウッドと共に出席し、本館の事業の進捗などについて報告、及び運営上の情報交換さらには企画展の共同開催についても情報交換を行う。

⑨ 運営管理の改善と効率化

館の運営に係る管理費(固定経費)をより精度よく把握するとともに、事業費(変動費)の予実管理の充実を図ると共に効率よい運営を推進する。